



松かさ学級における思春期を迎えた自閉的傾向児A君  
とのかかわり：  
TEACCH的手法を取り入れた「一人でおつかい」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学教育学部旭川校特殊教育特別専攻科障害 児教育研究室 公開日: 2017-07-27 キーワード: 作成者: 粥川, 一成, 中保, 仁, 岡, 信恵, 亀淵, 興紀, 谷川, 忍, 矢口, 少子, 長, 和彦, 古川, 宇一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00008035">https://doi.org/10.32150/00008035</a>

## 松かさ学級における思春期を迎えた自閉的傾向児A君とのかかわり — TEACCH的手法を取り入れた「一人でおつかい」 —

A Case Study of Buying Skills of an Autistic Child Using the TEACCH Program

粥川一成(Kazunari Kayukawa)\*<sup>1</sup> 中保 仁(Hitoshi Nakayasu)\*<sup>2</sup> 岡 信恵(Nobue Oka)\*<sup>2</sup>  
亀淵興紀(Kouki Kamebuchi)\*<sup>2</sup> 谷川 忍(Shinobu Tanikawa)\*<sup>3</sup> 矢口少子(Mareko Yaguchi)\*<sup>3</sup>  
長 和彦(Kazuhiko Cho)\*<sup>4</sup> 古川宇一(Uichi Furukawa)\*<sup>5</sup>

6年生の自閉的傾向を持ったA君は思春期を迎え、これまでに見られなかったような様々な行動が目につくようになった。A君とかかわりをもった粥川は、まず彼にふさわしい指示理解の方法を探った。その結果、絵または文字によるカード等を用いて視覚的に見通しを持たせる支援をすると、指示理解ができやすくなり、意欲的に行動できることがわかった。また、青年前期に求められるものとして「家事の分担」があげられるが、この取り組みとして家庭での「おつかい」ができることををめざした。この場合にも、視覚的に見通しの持てる絵または文字カードを提示するなど、一定の条件があれば取り組めると実感した。その実践を報告する。

(キーワード：自閉症 特殊学級 TEACCHプログラム 思春期 おつかい学習)

### 1. はじめに 「思春期」という課題

松かさ学級6年生のA君と中学校教員の粥川との出会いは、必然的に「進路」とか「思春期」という課題に結びついた。思春期をどう過ごすかで青年期の予後は左右されるものであり、家庭・地域スキルの獲得が重要な課題であると考えた。自閉症児が家族の一員としての自覚を持ち、家庭内での役割を担うことにより、情緒的に安定した青年期を迎えると言われて<sup>1)</sup>いる。A君は、すでに清掃などで家庭内の役割を持つてはいるが、一人でおつかいは未経験であった。

昨年A君とかかわりを持った笠井<sup>2)</sup>は「買い物学習」に取り組み、A君が金銭を扱う上でのスキル獲得に成果があった。しかし、練習中に店内放送による予想外の行動(パニック)があったこと、家庭と連携してA君の自宅周辺での練習を行う必要性等の課題を残した。そこでこの「おつかい学習」では家族が毎日消費するような物をA君に頼んで買って来てもらうこと、帰宅した家族から賞賛や感謝の言葉を受けることによってさらにA君の自信が深まること、家庭内の意思疎通の円滑化につながることをめざした。またA君の地域生活スキルとしての、社会資源の活用の仕方やマナーの学習、さらに将来の消費生活や余暇活動の習得をめざす一助としたい。この「おつかい学習」は現地練習が中心なので家族の協力は不可欠となる。そのため、より実践的となり、A君にとって生活習慣化されやすいと考えた。

\*<sup>1</sup> 北海道教育大学旭川校特殊教育特別専攻科  
生田原町立生田原中学校

\*<sup>2</sup> 旭川市立大有小学校

\*<sup>3</sup> 北海道教育大学旭川校特殊教育特別専攻科

\*<sup>4</sup> 旭川肢体不自由児総合療育センター

\*<sup>5</sup> 北海道教育大学旭川校

## 2. A君について

A君が2才の頃、専門医の診断を受けてから家庭での療育が始まった。旭川市立大有小学校に入学して知的障害児学級「松かさ」に在籍している。学級では「自分の思うが儘の生活から脱皮することが大きな目標。指示の意味を理解し、好き嫌いに関係なく従うことができるようにさせたい。自信を持ってできることを増やしてやりたい。」として「一人で買い物ができる」を家庭生活目標の一つとして支援している<sup>3)</sup>。家庭での最近の療育上の悩みは、母親の指示に時々従わずに自分勝手とも思える行動が多くなって来たという点である。これまでの専攻科との関わりでは、千田<sup>4)</sup>が遊びを通してコミュニケーションを図り、鈴木<sup>5)</sup>が要求言語の育成と指示理解の向上を目指し、笠井が「買い物学習」を試みている。本取り組みは、いわば笠井の実践を引き継ぐ形の「おつかい学習」であるが、笠井の実践をふまえ、よりA君の家庭と地域生活に近づけようと取り組んだ。

この10月、A君はA療育センターの小児科で諸検査を受けた。その結果、S-M社会生活能力検査はSAが8歳3ヶ月、SQが68で、特に「身辺自立」と「作業」の領域は生活年齢よりも高い。だが、「意志交換」（コミュニケーション）は6歳半、「集団生活」は6歳前後であった。WISC-R検査のIQは49で、動作性IQが62であった。

## 3. 「おつかい学習」の取り組みの経過

- (1)9月 ・おつかいの現地テスト
- ・お金の種類の学習
  - ・メモ等による指示理解の学習
- (2)10月 ・お父さんのタバコ識別学習
- ・絵カードによる見通し学習
  - ・タバコを買う予備練習
- (3)11月 ・タバコ「一人でおつかい」
- ・おつかいボードの操作練習
  - ・カードや写真によるT商店にむけての見通し学習

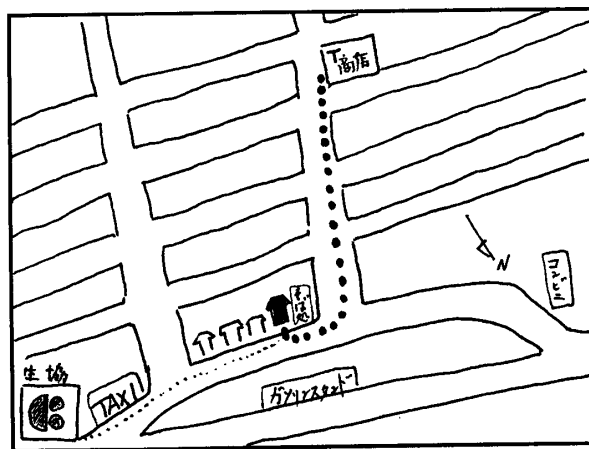
- (4)12月 ・お兄ちゃんの牛乳を買う予備練習
- ・タバコと牛乳の「一人でおつかい」

## 4. 「一人でおつかい」にむけて

最初に「お父さんのタバコを自動販売機で買ってくる」と目標を設定した。理由は、

- ・人を介さない自動販売機での買い物は、おつかいの最も初期の段階として、A君に可能と思われる。
- ・タバコはお父さんが毎日必要とする物だから、日常習慣化されやすい。
- ・目標が単純明快であれば店内放送等の音声刺激に耐え、行動を最後まで遂行することができるであろう。

以上の三点による。ここでA君の自宅周辺の簡単な地図と「一人でおつかい」のコースを図に示す。----- は、自動販売機への道のりで、----- は、T商店への道のりである。



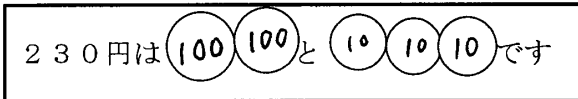
ここでA君に期待する行動を分析すると次のようになる。

- ①おつかいをたのまれて「はい」または、「いいえ」の返事（意志表示）ができる。
- ② 財布のお金を確認できる。
- ③ 一人で外出の準備をして、家人へ「行って来ます」と言って出かけられる。
- ④ 決まった道を寄り道せずに行ける。
- ⑤お父さんのタバコがどれか分かる。
- ⑥自動販売機にお金を入れボタンを押せる

- ⑦寄り道せず、まっすぐ帰ることができる
- ⑧家人へ「ただいま」と言える。
- ⑨「タバコありました」または「タバコありませんでした」の報告ができる。

(1) お金の種類の学習

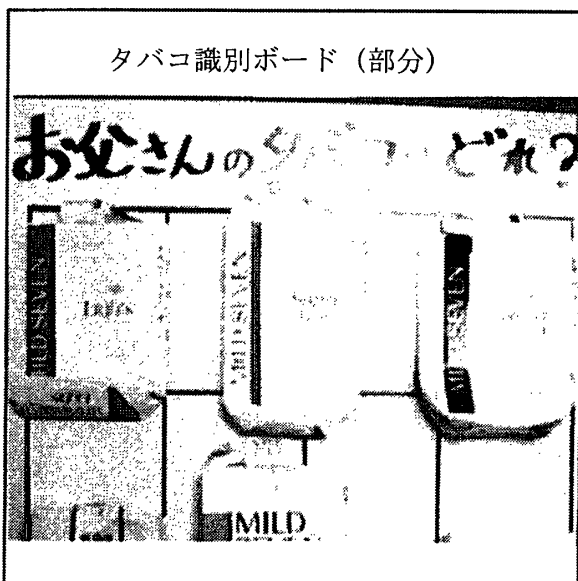
タバコの代金230円を次のようなカードに貼って、正しい金額を出す学習をした。



同時に、初回のおつかいテストでA君は五円・五十円・五百円硬貨の使用に困難性を示したため、それらの硬貨を含む両替の学習も行った。しかし現地練習では、行動を単純化するために上に示した硬貨のみを使用した。

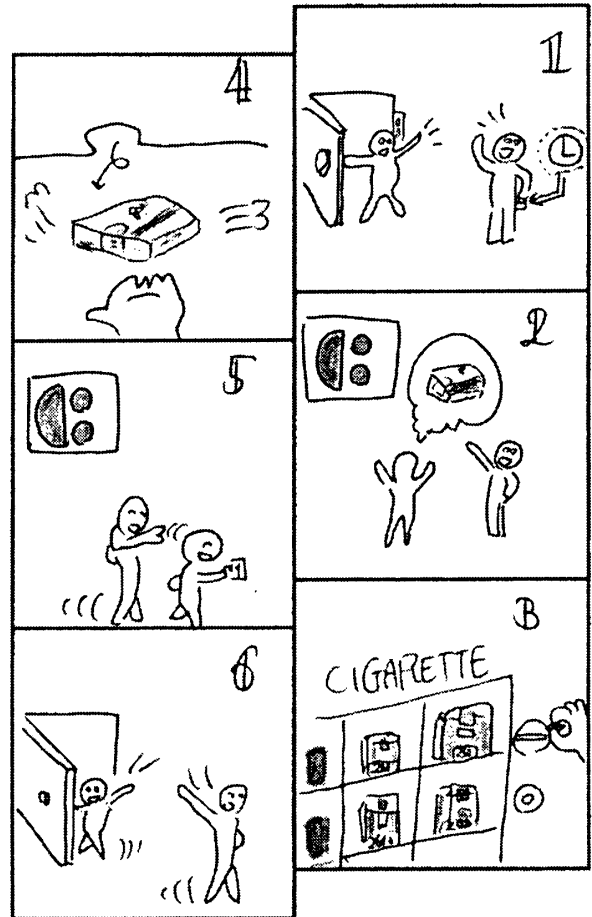
(2) タバコの銘柄の識別学習

「マイルドセブンスーパーライト」が、お父さんのタバコであるが、この銘柄は大人でも間違える程、パッケージの類似品が多い。そこで次の写真のようなボードを作製して「マイルドセブンスーパーライト」の箱を幾つかの類似した実物のタバコの箱と一緒に貼り付けた（着脱が可）。本物の位置を変えるなどして、A君が、「マイルドセブンスーパーライト」と指さして言う練習をしたが、三回目の試行でできるようになった。



(3) 絵カード

家を出て帰るまでの一連の行動を6コマの絵カードに示し、学級での「一人でべんきょう」の時間と、現地練習の直前にA君に見せた。



(4) 「一人でおつかいⅠ」練習①

(10月22日 16:00～)

初回なので粥川がA君と同行した。絵カードやタバコの識別の確認を首尾よく済ませて出発したA君だったが、突然路上に飛び出し、両手を挙げ、走ってきたトラックを止めてしまうというハプニングがあった。店内での買い物は緊張した表情で遂行したが（音楽やアナウンス等の音声刺激にも耐えた）、往復の道のりでは安全保護のためにつながれていた手をふりほどこうと終始興奮していた。

A君は学校周辺から自宅までの距離を一人で歩いた経験があるから、この「飛び出し行動」は全く予想外であった。なぜこのような行動が生じたのか、様々な角度から分析が試みられた。まず、絵カードの印象からくる楽しい雰囲気が、

A君にとって遊び感覚で歩くことを想起させたのだろうか。また、事前学習の順序として本来タバコの買い方の学習は後回しであって、絵カードによる「おつかい」行動全体の見通し学習や、ボードでのカード掲示学習（後述）を先決すべきであった。そのため「買う」行動が中心となってしまう、自宅から出発して帰ってくる「おつかい」としての歩く行動が意識されにくかったのではないか。その他にも「試し行動」とか、「嬉しさからくる行動」等が考えられたが、いずれにしても独立心と依存心の狭間に揺れる思春期のA君が手をつながれて歩くことや、周囲の言葉のかけ方等が見直された。

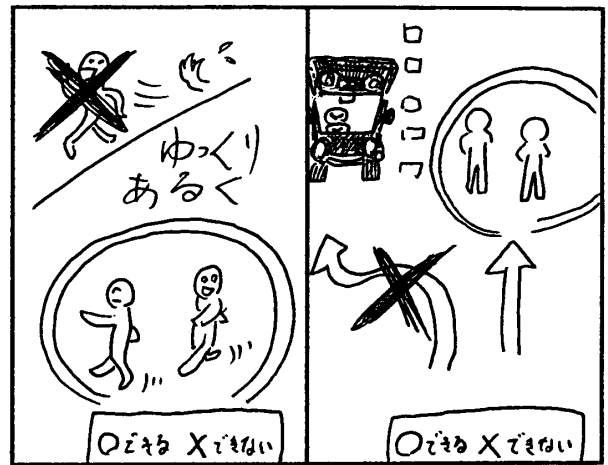
後日、学校周辺の別なコースでおつかいを試行しても飛び出し行動は見られなかった。「自宅周辺の歩き慣れた道」であるという一種の開放感が一因であるならば、歩き方での安全面は大切であり、新たな課題となった。次回からは日没前に練習を行うことにした。

(5) 「一人でおつかいⅠ」練習②

(11月10日 15:00～)

事前学習で絵カードに「ゆっくり歩く」と「まっすぐ歩く」の2コマを追加し、「○でまる×できない」の補助カードを付加した。この二項目が「約束」として守られなければ（つまり×でま

いであれば）練習はその場で強制終了される、という事をA君が理解できるように試みた。  
(新たに追加した2コマの絵カード)

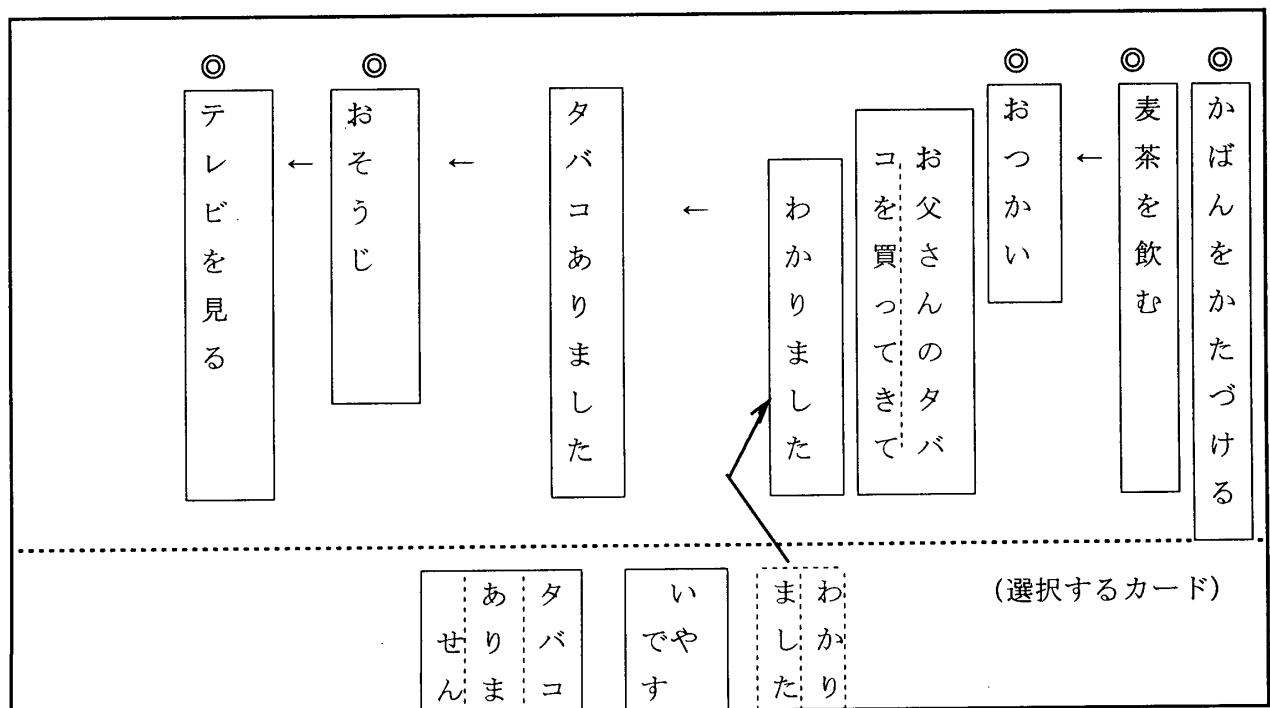


現地でも絵カードを見せながら、歩道の歩き方を見直してもらうよう促した。道端の雪で雪玉を作っていたずらをする場面も見られたが、時々「約束」を思い返しているようだった。目的物は売り切れランプがついており、酷似する隣の商品「マイルドセブンライト」を買ってしまった。促しで間違いにすぐ気がつき、再試行した。帰路は最初走り出したA君だったが、やがてまっすぐ、ゆっくり歩いて自宅に着いた。

(6) 「一人でおつかいⅠ」練習③

(11月13日 14:47～)

これまでの練習で自動販売機でのタバコの買



い方や行き帰りの道のりを学習したA君だが、次の段階として家庭での生活習慣化のための練習が必要となった。中保がA君宅に出向き、帰宅したら「かばんのかたづけ」「麦茶を飲む」というA君の生活習慣の流れを次の図のようにホワイトボードにカードで掲示して、その行動項目が終わる毎に順次ひっくり返す作業のモデルを示し、おつかい行動の開始の合図、終了の報告とした。(前頁の図「A君の帰宅後のスケジュールボード」を参照)

お母さんがカードを指さしながらA君に「お父さんのタバコを買ってきてください」と指示。中保が「いやです」「わかりました」カードを見せて促すとA君は「わかりました」と返答した。(「いやです」なら理由を聞く)。所持金を確認して玄関へ出ると突然、雨が音を立てて降ってきた。いつものA君なら叫び声をあげて引き返して来るのだが(お母さんの談)、傘もささず走りもせず、よそ見もしないでひたすらまっすぐ歩いて行った。中保とお母さんは自動車に乗ってA君を追跡し、行動を観察した。A君は雨にぬれながらも、ゆっくりとまっすぐに学習した通りの道筋を歩き、帰路も自宅をめざしてゆっくりとまっすぐ歩いた。帰宅したA君にお母さんが「お帰り。ただいまは?」と声をかけると、元気よく「ただいま!」と応え、「タバコは?」の問いにタバコを差し出し、ホワイトボードのカードを指さして「タバコ買ってきました」と答えた。その後は大急ぎで体を乾かしていたが、お母さんが「えらかったね」と声をかけると「えらかった、えらかった」と得意そうな顔で連発していた。

(7)「一人でおつかいⅠ」の定着化

(11月20日以降のお母さんの評価)

このようにしてA君の「一人でおつかい」が実際に始まった。学校から帰宅後、ホワイトボードに掲示されたカードをひっくり返すことで行動を開始した。14日間、お母さんにA君の「おつかい」を評価して頂いたが、その行動項目と結果は次の図の通り。そのうち5回目のお

つかいを粥川が観察した。緊張した表情でスーパーへ向かうA君だったが、タバコを買って帰途につく際は少し慣れてきた歩き方が見られた。9回目から所要時間がそれ以前よりも3分以上オーバーすることがあり、「いってきます」と「ただいま」の抜けることが多くなってきた。お母さんの話では、慣れてきて緊張感がなくなった様子とのこと。「おつかい」が次の段階に進む時期と思えた。

正反応：□／誤反応：■

	①	②	③	④	⑤	⑥
行動項目・回数	わ返か 事り でま きし るた と	行 っ て 来 いま えす ると	ま っ す ぐ 帰 るっ て	た だ い ま えと る言	タ バ コ 報あ 告り すま るし	タ バ コ を 間 な違 いえ
1		■		■		
2		■		■		
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9			■	■	■	
10		■	■	■	■	
11						
12		■	■	■	■	
13			■	■	■	
14			■	■	■	

(8)「一人でおつかいⅡ」にむけて

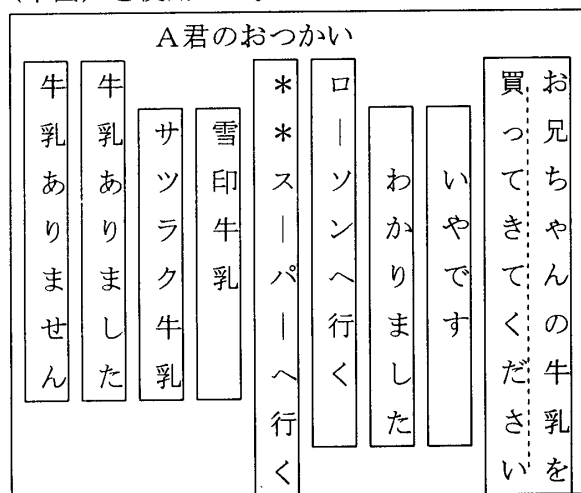
別のスーパーで「お父さんのタバコとお兄ちゃんの牛乳を買う」という目標を設定した。別な店で、店員を介して種類の異なった二品目を買うのである。ねらいは、

- ・牛乳はA君のお兄ちゃんが毎日消費する物で、家族の役に立つ。
- ・前回のスーパーと正反対の方角であるので

A君の生活行動範囲が広がる。

- ・中規模のスーパーであり、理解ある店員の協力によって、ある程度の環境の操作が可能（声かけ、店内放送など）。

と思われたが、行動連鎖が少し複雑化するため、特殊学級での個別学習の時間に学校そばのコンビニエンスストアで練習した。家庭で使ったボードを簡略化し選択性を持たせた携帯ボード（下図）を使用した。



次にA君の行動項目を下に示した。

- ①カードで意志表示、「いってきます」と言う。
- ②財布を持ち店まで走らずまっすぐ歩く。
- ③「こんにちは」、とかごをとる。
- ④牛乳の所へ行き、かごに入れる。
- ⑤寄り道せず、まっすぐレジへ行く。
- ⑥並んで正しい位置で会計を待つ。
- ⑦「マイルドセブンスーパーライト」を一つくださいという。
- ⑧値段表示を見てお金を払う。
- ⑨レシートを受け取る。
- ⑩牛乳とタバコを家に持ち帰り報告する。

#### (9)「一人でおつかいⅡ」練習①

(12月17日、学校そばのスーパー、11:10～)

安全に店まで歩き、「こんにちは」と言って入店した。丁度クリスマスシーズンで店内放送が賑やかに流れていたが、A君は牛乳のコーナーへまっすぐ行き、かごに入れ、レジに向かった。かごを置こうとした時、「あんまん・肉まん」のコーナーで立ち止まったが、促されて台

の上に置き「お願いします」と言った（タバコは本店で扱っていない）。「218円です」と言われたのをA君は「280円」と聞き違えたのか百円硬貨2枚と十円硬貨を8枚出した。店員は金額を再度言うことなくA君に十円硬貨7枚を返し、五円硬貨と一円硬貨3枚を求めたのでA君は不機嫌になってレシートを受け取ると小走りに外へ出た（しかしその後はゆっくり帰宅した）。

#### (10)「一人でおつかいⅡ」練習②

(12月22日、学校そばのスーパー、11:00～)

事前学習として、教室でお店のレジの写真をA君に見せ、値段表示をよく見てからお金を支払うように促した。すると今回は店のレジで正しくお金を払うことができた。帰り道に粥川が走り出そうとすると「だめ、歩く。約束！」と声を発した。これまでの歩き方練習が活かされていることを感じた。

#### (11)「一人でおつかいⅡ」練習③

(12月22日、現地T商店、15:00～)

初めて現地練習を行ったが、前日にお母さんと訪問していたせいか、A君は随分リラックスしているように感じた。「こんにちは」とあいさつをしてかごを持った。が、果物コーナーやお菓子のコーナーで立ち止まることが多かった。2種類の牛乳を1本ずつかごに入れたので指摘されると、指定されなかった種類を返した。レジでは二人の先客がいたのでA君は後ろに並んで待った。しかし店員さんの「待っていてね」の指示で、A君はレジにかごを置いたまま場所を離れた。店内の各コーナーを見ながら、待ち時間をつぶそうとする様子だったが、粥川に戻された。「マイルドセブンスーパーライトを一つ下さい」は促されて声が出た。支払いは値段表示を見ながら注意深く硬貨を数えて正しく出来た。レジで並んで待たず、店内を歩き回るといふ行動が課題として残った。

#### (12)「一人でおつかいⅡ」練習④

(12月26日、現地T商店、10:00～)

遂行可能な行動を優先して練習させ、正の強

化を得ておつかい行動の定着化を図る<sup>9</sup>ため、「レジで並んで待つ」という行動を省いた。つまり、あらかじめ店内の空いている時間帯を選んで練習をした。

この日のA君は寝起きが大変悪く、お母さんが「お父さんのタバコとお兄ちゃんの牛乳買ってきて」と言葉をかけると耳ふさぎをし、その場にひっくり返って泣き叫んだ（パニック行動）。困惑したお母さんが、A君に持たせようとしたサイフを引っ込めようとするA君が手を出したので、そのまま様子を見ることにした。やがてA君は突然思い立ったように自分の部屋に行き、携帯ボード（前掲）をじっと見つめて何か考えているようだったが、やおら身支度を整えるとブツブツとCMのような、場面と無関係な発語を繰り返して外出した。

T商店までは自動車も通行人もあつたが安全に歩き、ブツブツと独り言を言いながら入店した。「こんにちは」のあいさつこそ無かったが、かごを持ってまっすぐ指定された種類の牛乳を選んで入れ、まっすぐレジに行った。その時、店員が「何か忘れていない？」と声をかけたが無反応だったので、タバコのコーナーを指さすと「マイルドセブンスーパーライトを一つ下さい」と言った。支払いでは小銭を1枚1枚、サイフから取り出しては、もどかしいのか地んだを踏む動作が見られたが、その他の行動は特に支障なく遂行され、帰宅してカードによる報告もできた。

この日はA君の不調にもかかわらず指導者の支援は皆無で、店員の協力によってのみ練習できたのは大きな成果だった。

### (13) 「一人でおつかいⅡ」の定着化

お母さんがあらかじめT商店と連絡をとって、A君の冬休み期間中はなるべく客の少ない時間帯を狙い、いつもと同じ店員さんにレジに立ってもらうようにしている。買い物中に何か問題が生じた場合のためにA君の腕に「買い物練習中 連絡先（電話番号）」と書いた腕章をつけてもらっている。

現在（99年1月）定着化を目指して取り組んでいるところであるが、お母さんとT商店の報告によると、「一人でおつかい」は順調にしている。

## 5. 考察

これまで一人で買い物をした経験のないA君だったが、「一人でおつかいⅠ」の定着化が家庭で始まった頃、家族でデパートに出かけた際、自分のサイフを預かると、初めて自分の意志で自動販売機のコーナーに行き、好きなウーロン茶を買って飲んだ。自動販売機を使う部分での般化<sup>9</sup>ができた。だが好きなポテトチップスは、習慣的にレジでお母さんの買い物かごに入れてその場を離れてしまい、あとで自分がサイフを持っていることに気づかされ、ハツとしていたそう。それ以後、自分のサイフに注意を向けるようになった。

課題となった店内を歩き回るといふA君の行動だが、商品の所在を知ろうとする観察行動として肯定的に考える。ただ「好きな物を買う」ということは現段階では自制してもらい、中1になったらお手伝いの報酬として、月千円くらいの小遣いをもらうことを考えたい。A君が小遣い帳を作成し、その中で何を買うか、自分ならどう使うかを考えて、主体的・計画的な消費活動を展開できれば、と思う。

今回の実践で現地練習を近所のスーパーで行うことにより、地域の人とコミュニケーションをとることができ、A君にとっては社会参加の端緒となったと言えるだろう。

家庭内ではこれまで一方的に家族から守られ、与えられることの多かった受け身の立場から、自ら選び、自ら決め、時に家族の役に立つ、主体的で能動的な立場に変わっていくことがこれからの思春期の発達課題といえる<sup>7)</sup>。本取り組みで「いやです」・「わかりました」や「雪印牛乳」・「サツラク牛乳」等のカードで、選択の機会を作っているのはそうした考えに基づく。

金銭のスキルは、買い物だけにとどまらず、

公共交通機関（電車、バス）の利用、カラオケやボウリング、映画に行くことなどの地域生活の多様化へとつながるものであろう。受け身的な楽しみが興味として定着し、やがて能動的な趣味となっていく過程の有力な手段であり、動機づけともなっていく。

A君の青年期に心から期待したい。

#### 謝辞

本実践を行うにあたり、A君とご家族、そして「スーパーたるみ」さんの協力を得ました。記して感謝致します。

#### 文献

- 1)佐々木正美(1993)：自閉症治療ハンドブック－TEACCHプログラムに学ぶ－，学研
- 2)笠井保志(1998)：特殊学級における自閉児A

君とのかかわり－TEACCH的手法を取り入れた買い物学習，情緒障害教育研究紀要，第17号

3)大有小学校(1998)：第31回実践研究発表会研究紀要，大有の教育

4)千田重幸(1996)：知的障害児学級における自閉児Y君の個別指導の試み，情緒障害児研究紀要，第15号

5)鈴木明子(1997)：自閉児Y君とつくりあげた共通の「意味と表現」の世界，情緒障害教育研究紀要，第16号

6)山本淳一・加藤哲文(1997)：応用行動分析学入門，学苑社

7)高橋潔(1998)：段階式弘済学園の金銭・買い物指導，月刊実践障害児教育 Vol.303

8)佐賀大学教育学部附属養護学校(1996)：研究紀要（第8集）変容の実感(その1はたらく)